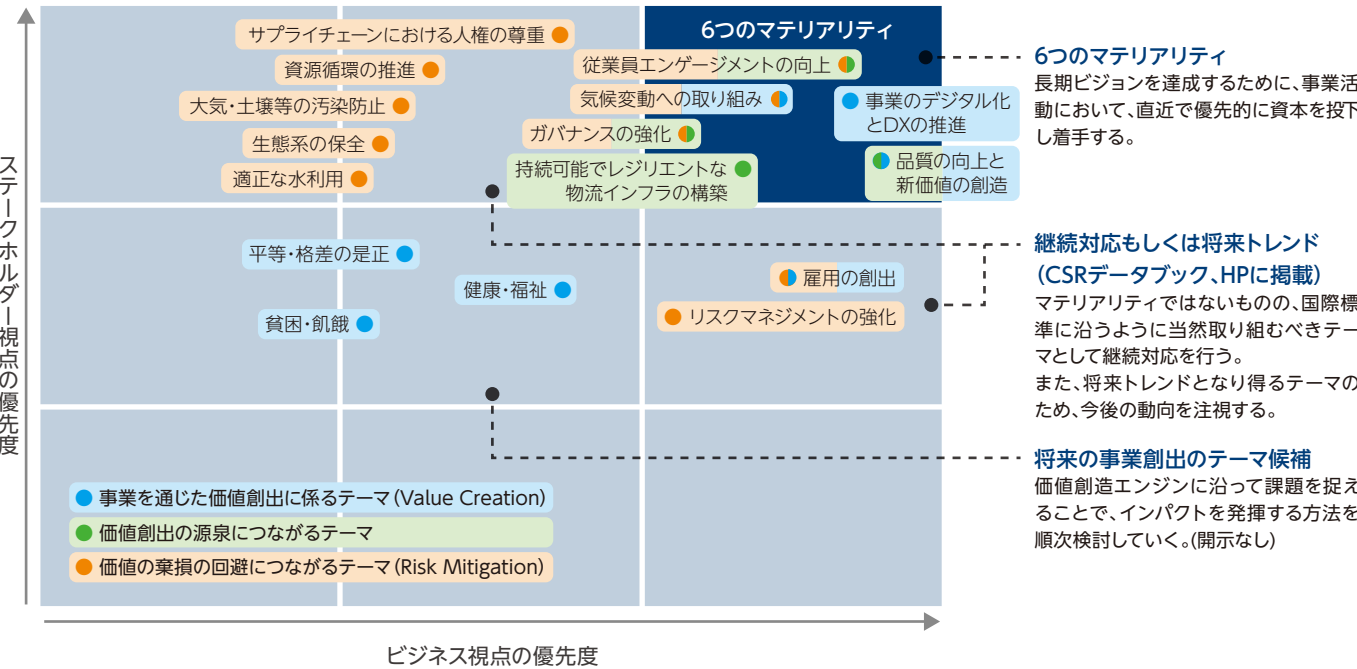


マテリアリティ評価の再確認

グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニーになるという、日本通運グループの長期ビジョンを達成するために、2021年にマテリアリティ評価を再確認しました。従来発信してきた重要課題の観点と同様の「ステークホルダーへの価値提供」の観点に加え、「ビジネス視点での優先度」の観点の2軸で評価を行うことで、経営計画と整合ある課題としました。

※マテリアリティの特定プロセスについては統合報告書をご覧ください。



主要なESG課題

このCSRデータブックでは、上記のマテリアリティ評価で抽出された主要なESG課題を含め、日本通運グループの取り組みをESGに分けて掲載します。

	ENVIRONMENT 環境	SOCIAL 社会	GOVERNANCE ガバナンス
主要なESG課題	- 気候変動への取り組み - 資源循環の推進 - 大気・土壌等の汚染防止 - 適正な水利用 - 生態系の保全	- 持続可能でレジリエントな物流インフラの構築 - サプライチェーンにおける人権の尊重 - 雇用の創出 - 従業員エンゲージメントの向上 - 事業のデジタル化とDXの推進	- ガバナンスの強化 - リスクマネジメントの強化 - 品質の向上と新価値の創造
CSRデータブックの記載内容	- 環境マネジメント - 気候変動対策の強化を通じたCO₂排出削減 - 環境負荷の低い物流技術・サービスの提供 - 気候変動の強靱性、適応能力の強化 - 資源循環の推進 - 陸域・海洋生態系の保全	- サプライチェーンにおける人権尊重の徹底 - 労働衛生の確保 - 働きがいある職場の実現 - グローバルで活躍できる人財の育成 - ダイバーシティ&インクルージョンの推進 - ワークスタイルイノベーションの推進 - グローバル・パートナーシップの強化 - 持続可能で強靱なインフラ開発への貢献 - 事業を通じた社会貢献	- 公正な事業慣行の推進 - 腐敗防止の徹底 - 労働安全・社会安全の徹底 - 物流に係る社会安全の実現 - お客様や社会からの期待に応えるグローバル品質の推進 - コーポレート・ガバナンスの強化 - 個人情報保護 - リスクマネジメント

ステークホルダーエンゲージメント

日本通運グループは、幅広いステークホルダーとの双方向のコミュニケーションの下、ステークホルダーの期待や懸念に応えるよう努めていくことが重要であると考えています。

株主・投資家

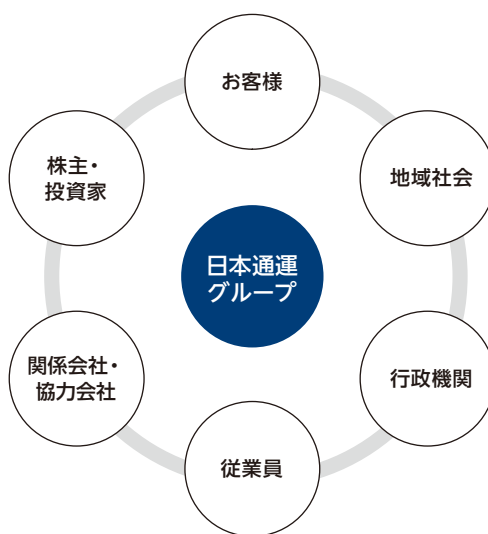
- 株主総会（年1回）
- 決算説明会（年4回）
- ESG対話プログラム（日常的）
- アニュアルレポート等の報告書（随時）

関係会社・協力会社

- 安全協議会（半期に1回）
- 会議・説明会（随時）

従業員

- 内部通報制度
「ニツウ・スピークアップ」（日常的）
- 個人面談（随時）
- 社内アンケート（随時）
- コンプライアンス意識調査（年1回）
- 社内報（月1回）



お客様

- 展示会・説明会・セミナー（随時）
- お客様相談センターでの受付（電話、WEB）（日常的）
- お客様アンケート（随時）

地域社会

- 経済・業界団体への参加（随時）
- 講演・教育の場への講師派遣（随時）
- 社会貢献活動（随時）

行政機関

- 委員会・協議会・会議（随時）